

議 第 2 号

カリキュラム・オーバーロードの改善を求める意見書について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第99条の規定により、別記意見書を関係行政庁に提出するものとする。

令和 7 年 9 月 2 5 日 提 出

提案者	中野市議会議員	塚 田 一 夫
賛成者	中野市議会議員	中 村 明 文
〃	〃	笠 原 豊
〃	〃	宮 島 包 義
〃	〃	阿 部 光 則
〃	〃	原 澤 年 秋
〃	〃	高 野 良 之
〃	〃	芋 川 吉 孝

令和 7 年 9 月 2 5 日 可 決

中野市議会議長 芦 澤 孝 幸

カリキュラム・オーバーロードの改善を求める意見書—(案)—

今、学校現場では、小中学校、高等学校を合わせると41万人を超える不登校の子ども数が文部科学省の調査で明らかになっている。とりわけ小中学校では11年連続で増加し、過去最多となっている。また、貧困・いじめ・教職員の未配置など解決すべき課題が山積しており、長時間労働の実態も改善されず、子どもたちの豊かな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっている。

学習指導要領の改訂は、子どもたちの豊かな学びの保障や、教職員の「働き方改革」に大きくかかわるものである。国の教育課程基準に基づき、学校が定めた教育課程の時数と内容が過多になっていることで、子どもや教職員に過大な負担がかかっている状態（いわゆる「カリキュラム・オーバーロード」）を改善することが喫緊の課題である。このため、次期学習指導要領の内容の精選や、標準授業時数の削減が強く求められる。

よって、中野市議会は、国に対し、下記の措置を講じられるよう強く要請するものである。

記

1. 子どもたちの豊かな学びを保障するため、カリキュラム・オーバーロードの早期改善、学習指導要領の内容の精選等を行うこと。